

<子宮頸がん検診>

◆市町の評価に関して◆

* 本調査は、平成23年度（調査対象年度は平成21年度）から開始しており、7年目の調査となります。

【調査項目（56項目）】

(1) 検診実施体制整備に関する調査（調査対象年度：平成29年度）

①検診対象者の情報管理、②受診者の情報管理、③受診者への説明、及び要精検者への説明、④精密検査結果の把握、精検未受診者の特定と受診勧奨、⑤地域保健・健康増進事業報告、⑥検診機関（医療機関）の質の担保の27項目

(2) 検診の精度管理把握に関する調査（調査対象年度：平成27年度）

①受診率の集計、②要精検率の集計、③精検受診率、未受診率の集計、④がん発見率の集計、⑤陽性反応適中度の集計、⑥上皮内病変（CINなど）数、微小浸潤がん割合の集計の29項目

【評価方法】

市町から提出のあった調査項目への回答に基づいて、次の方法で評価しています。

ランク	調査項目	項目数
A	すべて満たしている	56項目 すべて満たしている
B	一部満たしていない	1～8項目 満たしていない
C	相当程度満たしていない	9～16項目 満たしていない
D	大きく逸脱している	17～24項目 満たしていない
E	さらに大きく逸脱している	25～32項目 満たしていない
F	きわめて大きく逸脱している	33項目以上 満たしていない
Z	回答がない	

【調査結果】

*市町別の評価は、下記のとおりです。（詳細な結果は、表1-1、表1-2を参照）

これまでも評価項目がクリアできるように指導し、見直しが行われてきました。C、D評価であった市町については、引き続き遵守できるよう改善を依頼していきます。

平成29年度 子宮頸がん検診精度管理調査結果

	市町名	評 価		備 考
		集 団	個 別	
1	金沢市	B	B	
2	七尾市	B	B	
3	小松市	B	B	
4	輪島市	B	B	
5	珠洲市	B	C	
6	加賀市	B	C	
7	羽咋市	B	C	
8	かほく市	B	D	
9	白山市	C	C	
10	能美市	B	C	
11	野々市市	B	C	
12	川北町	C	C	
13	津幡町	B	B	
14	内灘町	B	B	
15	志賀町	B	C	
16	宝達志水町	B	C	
17	中能登町	B	C	
18	穴水町	B	C	
19	能登町	B	C	
	計	19	19	

評価	集 団 (市町数)	個 別 (市町数)
A	0	0
B	17	6
C	2	12
D	0	1
E	0	0
F	0	0
Z	0	0

評価基準
A:「基準」をすべて満たしている
B:「基準」を一部満たしていない(1~8項目満たしていない)
C:「基準」を相当程度満たしていない(9~16項目満たしていない)
D:「基準」を大きく逸脱している(17~24項目満たしていない)
E:「基準」をさらに大きく逸脱している(25~32項目満たしていない)
F:「基準」から極めて大きく逸脱している(33項目以上満たしていない)
Z:回答がない

【子宮頸がん検診精度5指標】（詳細な結果は、表2を参照）

a. 「受診率」

子宮頸がん検診の対象者（算出方法は市町によって異なる）のうち受診された方の割合です。高いことが望ましいとされています。

b. 「要精検率」

受診された方のうち精密検査が必要とされた方の割合で、許容値は1.4%以下（受診者100人中、要精検が1.4人以下）とされています。

許容値を超えたのは、金沢市、七尾市、小松市、珠洲市、加賀市、かほく市、白山市、能美市、野々市市、川北町、内灘町、志賀町、宝達志水町、能登町でした。

c. 「精検受診率」

「要精密検査」とされた方のうち、実際に精密検査を受けられた方の割合で、精度評価の最も重要な指標と位置付けられています。高い方が望ましい指標で、目標値は90%以上、許容値は70%以上とされています。

許容値を下回ったのは、内灘町、志賀町、穴水町でした。

d. 「子宮頸がん発見率」

受診された方のうち子宮頸がんが発見された方の割合で、基本的に高ければ高い方が望ましい指標です。許容値は0.05%以上とされています。規模が小さい市町の場合その年ごとの増減が大きくなるため、5年間の平均で算出してあります。

許容値を下回ったのは、小松市、珠洲市、能美市でした。

e. 「陽性反応適中度」

検診で「要精密検査」とされた方のうち、実際に子宮頸がんがあった方の割合で、許容値は4.0%以上とされています。規模が小さい市町の場合その年ごとの増減が大きくなるため、5年間の平均で算出してあります。

許容値を下回ったのは、金沢市、七尾市、小松市、珠洲市、加賀市、白山市、能美市、野々市市、川北町、津幡町、内灘町、能登町でした。

※「精検受診率」は許容値を下回るとは良くないとされていますが、それ以外の指標は、人口構成による違いや継続受診者の比率などによっても大きな影響を受けるため、下回れば必ず問題があるとは言えません。また、「子宮頸がん発見率」「陽性反応適中度」は、小さな自治体では年度による変動が大きいとされています。